

創設60周年記念 第60回全日本実業団剣道大会

平成29年9月18日(月・祝)
日本武道館

主催：全日本実業団剣道連盟

西日本勢が猛威を振るう！

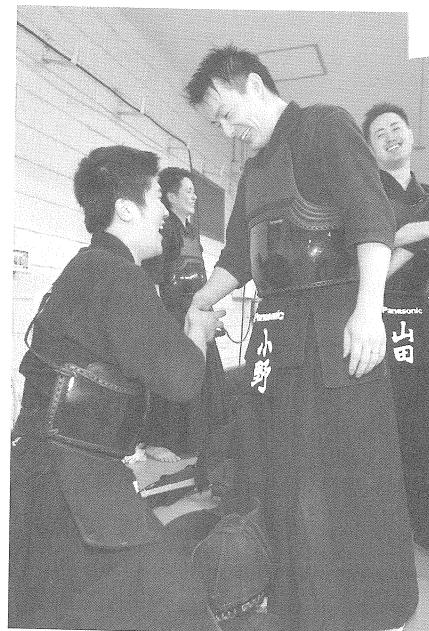
パナソニックESが連覇達成



決勝 [代表]

足達(パナソニック・ES本社)コ一 櫻原(東レ・滋賀)

▲近畿対決となった決勝戦は代表戦へともつれた。ここまで大将戦、代表戦という苦しい場面を乗り越えてきた両大将が再び対決。力強い足達の攻め込みに対して櫻原はスピードで対応。決着の一打は足達が得意とするコテ(写真)。これが櫻原の手元をとらえた



決勝戦終了後、代表戦を制した足達とキャプテンの小野が固い握手を交わす。足達は最優秀選手に選出された

チーム	先	次	中	副	大	得点	代
パナソニック (ES本社)	山 田	吉 村	小 野	高 橋	足 達	1	足 達
東レ (滋賀)	寺 井	藤 田	嘉 数	各 務	櫻 原	1	櫻 原

優勝◆パナソニック(ES本社) 山田侑希(25歳)、吉村大地(23歳)、小野準平(31歳)、高優司(27歳)、足達翔太(27歳)、山田晋平(29歳)。監督=酒井順也

全国各地から実業団剣道連盟所属のチームが集い、日本一の座を争う大会。今回は前年よりも2チーム少ない365チームが大会にエントリーし、日本武道館でしおぎを削った。

試合時間は1回戦から準々決勝までは

一試合3分、その後の準決勝、決勝は4分で争われる。日本武道館内には16試合場が設けられるが、それぞれの試合コートはやや手狭な作り。実業団が「難しい」と評される理由は、この短い試合時間と

試合時間にある。

今大会を制したのは、昨年BチームのES門真チームが優勝したパナソニック(ES本社)。先鋒から山田、吉村、小野、高、足達という布陣で臨んだこのチーム

は同社のAチームにあたる。昨年の優勝メンバーである山田、吉村、足達の3人が出場したこのチームが、パナソニックES勢として連覇を達成した。

パナソニックと決勝を争ったのは同じ近畿実業団所属の東レ(滋賀)であった。

こちらもメンバーの層が厚く、次鋒の藤田、大将の櫻原は滋賀県代表として全日本選手権大会への出場経験があり、中堅の嘉数も今年の全日本選手権への出場を決めている選手。近畿実業団では幾度となく決勝を争っているライバル同士が日本一を決める舞台で竹刀を交えた。

パナソニックと東レとの決勝戦は、先鋒戦で東レ・寺井がメンの一本勝ちを收めると、パナソニックも副将の高が初太刀の出ばなメンを見事に決めて勝利。大

将戦を引き分けた末に、勝利の行方は代表戦へと委ねられることとなつた。代表戦に臨んだのは両軍ともに頼りになる大将同士。東レ・櫻原は決勝戦がこの日三度目の代表戦、パナソニックの足達も厳しい大将戦を制し続けてチームをここまで導いてきた。

実業団剣道界屈指の実力者同士の代表戦は、足達の必殺技とも言えるコテで決着した。

連覇の喜びに沸くパナソニック陣営。試合を終えた選手たちを労う酒井順也監督にコメントを聞いた。

「連覇がかかった大会でしたが、昨年優勝してからまたゼロからのスタートといふことで今年一年を過ごしてきました。

今年は主将をこれまで3年間務めてきた勝見から小野に交替しました。守る剣道ではなく攻める剣道というチームカラー自体は変わりはしませんが、小野新主将のもと、近年では一番稽古を積んだのではないかというほど厳しい稽古を重ねてきました」

「ゼロからのスタート」は、メンバー編成にも顕著に表われた。

「本社チームと門真チームのメンバーが入れ替わっているのもゼロから始めたからこそその編成です。昨年はBチームに陥落した足達が今回はAチームに返り咲き、チームを率引してくれました。足達は今

年は大阪代表として全日本都道府県対抗優勝大会にも出場していますし、今日の試合ぶり 자체も頼りになりました。チー



準々決勝 [次鋒]

岩根(パナソニック・ES門真) 反×× 菅野(富士ゼロックス・大阪)

▲前回大会を制したES門真はパソコンニックのBチームにあたるが、Bチームといえども実力は充分。前衛2人は相手に先制を許すもきっちりと一本を奪い返して引き分け(写真は次鋒戦の攻防)。その後の中堅、副選で一気に空き放した

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック (ES門真)		日 下	岩 根	勝 見	永 井	磯 口	2
		メ タ	反 応	ミ メ	ク ド	メ ト	6
富士 ゼロッカス (大阪)		中 西	菅 野	奥 村	渡 邊	森 本	2 0



準決勝【大將】

足達(パナソニック・ES本社)メコ— 甲斐(西日本シティ銀行・本店)

▲一昨年の覇者西日本シティ銀行と昨年の覇者パナソニックが決勝進出をかけて激突。同点同本数で迎えた大将戦、甲斐がひきメンで先制すれば足達もひきメンで返す。一進一退の攻防はこの日冴え渡った足達のコテが決まった(写真)

チーム	浦	先	次	中	副	大	得点
パナソニック (ES本社)	山 田	吉 村	小 野	高 ⑧	足 メコ	達 3	2
西日本 シティ銀行 (本店)	佐 藤	小 川	閔	濱 地	甲 斐	2 1	2



| 準決勝 | [代表

樺原(東レ・滋賀)ドー 磯口(パナソニック・FS門真)

▲櫻原に於ては準々決勝に続いてこの日2度目の代表戦となった。対するパナソニックは大将磯口が登場。両者は開始すぐメンに出るもこれには旗が上がらず、その後試合は長期戦へとつづけた。決まり手は櫻原の執念の一打(写真)。磯口のメンをドロに返した。

チーム	順	先	次	中	副	大	得点	代
東レ (滋賀)		寺 井	藤 田	嘉 数	各 務	樺 原	0	櫻 原
		×	×	×	×	×	0	ド
							0	
パナソニック (ES門真)		日 下	岩 根	勝 見	永 井	磯 口	0	磯 口



| 準々決勝 | [代表]

櫻原(東山・滋賀) × 竹越(NTT)

ム内に「足達に回せば」という信頼感が生まれ、最後はやはり彼に託すことにしました」

決勝の相手、東レに対しての思いをこうのように語る酒井監督。

「近畿大会では昨年まで4年連続で東レさんが優勝されていましたが、今年の大会では我々が勝たせていただいた。長くいいライバル関係が続いていますし、今回の決勝戦でもどちらが勝つか分からぬい戦いでした。永遠のライバルですね」

決勝が近畿対決となつたように、今大会は西日本勢が上位を席巻。3位には西

日本シティ銀行（本店）、パナソニック（F S門真）が入賞し、ベスト4に関東勢が不在という珍しい結果となつた。今回のパナソニックの優勝で、日本一の座は3年連続西日本勢が占めたことになる。屬年の厚い関東勢の巻き返しに期待したい。



準々決勝

足達(パナソニック・ES本社)ヨー 山内(日通商事・本社)

▲近年安定した戦績を残している日通商事は今大会でも序盤戦を突破しベスト8にコマを進める。バナソニックに対しても真っ向勝負を仕掛け、勝負は大将戦へと突入。上段の山内にも足達は臆することなく対峙。すばやくコテを打ち込み、チームに勝利を引き寄せた(写真)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック (ES本社)		山 田	吉 村	小 野	高	足 達	1
		×	◎			◎	3
日通商事 (本社)		金 成	中 野	川 上	賀 川	山 内	0
		×	×	→	→	→	2



準々決勝

甲斐(西日本シティ銀行・本店) メーコ 鈴木(東芝テック・本社)

▲6回戦で東洋水産(本社)を下して勢いに乗る東芝テック。優勝経験のある西日本シティ銀行との戦いも五分の展開を繰り広げる。大将戦、開始すぐに甲斐がメンを奪うも鈴木もすぐさま出ゴテを返す。しかし、甲斐はひきメンを追加(写真)。スリリングな勝負を制した

チーム	順	先	次	中	副	大	得
西日本 シティ銀行 (本店)	佐 藤	小 川	関	濱 地	甲 斐	④メ	
東芝テック (本社)	千 葉	尾 崎	道	村 川	鈴 木	コ	
	×	×	×	×	×		

5回戦 東レ(滋賀) 3(5) — 0(1) パナソニック(ES大阪)【次鋒】藤田 \otimes — 森田

△先鋒戦で東レの寺井がメンの二本勝ち。試合の流れを一気に自軍に引き寄せた。勢いに乗る東レは次鋒の藤田も果敢な攻めを見せる。対する森田の技の打ち終りにもすばやく反応。メンを奪って連勝を飾った(写真)。その後の副将戦でもポイントを奪った東レの勝利

5回戦 日通商事(東京) 2(2) — 0(0) 九州電力(本店)【中堅】丸山 \otimes — 平田

△強豪選手が数多く揃う九州電力。日通商事との戦いは先鋒、次鋒が引き分けに終わる拮抗した展開となった。中堅戦、メン打ちの勝負を制したのは日通商事・丸山(写真背中が丸山)。九州電力にも逆転の望みはあったが、大将戦でも日通商事・木村が西村から勝利した

4回戦 パナソニック(ES本社) 2(3) — 2(2) JR東日本(本社)【大将】足達 \otimes — 大山

△過去に2位の戦績を残しているJR東日本。先鋒戦こそ落としたものの、中堅の川上、副将の廣瀬の連勝で逆転に成功する。リードを奪われたパナソニック・足達だったがここから真価を発揮。逆ドウを奪って勝負を五分に戻すと(写真)、決定打となるコテを追加した

**2位◆東レ(滋賀)**

寺井直希(24歳)、藤田浩輝(28歳)、嘉数卓(23歳)、各務絢揮(27歳)、樋原圭亮(25歳)、増田幸太郎(34歳)。監督=竹中淑浩

**3位◆西日本シティ銀行(本店)**

佐藤雄法(23歳)、小川慶明(23歳)、関雄介(33歳)、濱地佳祐(32歳)、甲斐勇太(27歳)、小野公次(38歳)。監督=古賀裕章

**5位◆パナソニック(ES門真)**

日下達基(26歳)、岩根佑馬(26歳)、勝見健太(33歳)、永井雪新(22歳)、磯口仁詩(29歳)。監督=酒井順也

**6回戦** NTT 2(2) — 0(0) 富士ゼロックス(本社)【先鋒】兵藤 \otimes — 米満

△関東大会連覇を達成し、この全日本でも優勝を目指す富士ゼロックス。その行く手に立ちはだかったのは関東の強豪・NTTだった。先鋒戦、力強い攻めで上段の米満に立ち向かった兵藤がメンで有効打突を奪う(写真は攻防)。白星スタートを切ったNTTは大将戦も制した

**6回戦** 東レ(滋賀) 1(3) — 0(1) 三井住友海上(本店)【大将】樺原 \times 鈴木

△実業団の有力チームが激突。東レの次鋒・藤田が短時間で二本を奪って大きな大きな先制点を挙げる。大将戦、二本を奪わなければ代表戦に持ち込めない鈴木だったが、樺原も伸び伸びと戦い鈴木に的を絞らせない。結果、ここも引き分けに終わり、東レが競り勝った(写真は攻防)

**5回戦** 日通商事(本社) 1(1) — 0(0) 西日本シティ銀行(福岡)【大将】山内 \otimes — 渡辺

△日通商事と西日本シティ銀行のBチームである福岡チームの戦いは先鋒から副将までの4試合が引き分けに終わる。大将戦、懐の深い上段の山内は片手ゴテなどの伸びのある技で渡辺を牽制。相手の警戒を散らしつつ、逆ドウに切り込んで一本を奪った(写真)

**6回戦** パナソニック(ES門真) 2(3) — 1(2) 日通商事(東京)【副将】永井 \otimes — 江藤

△次鋒岩根の勝利でリードしているパナソニック。追いつきたい日通商事・江藤だが永井がひきメンで一本を先制する。苦しくなった江藤、コテに跳び込むも、これを見切った永井がメンを打ち込み二本勝ち(写真)。勝負を決めた

**6回戦** パナソニック(ES本社) 2(2) — 1(1) 博報堂(赤坂)【中堅】小野 \times 角田

△30代の選手を中心にチームを構成している博報堂(赤坂)がベスト8進出に迫る。先鋒戦で二本負けを喫するも、次鋒戦では一本勝ち。その後の中堅戦は小野の激しい攻めにも角田が粘って引き分け(写真は小野の攻め)。結果、副将、大将も引き分けに終わるが、博報堂の健闘光る

**5回戦** パナソニック(ES本社) 3(4) — 1(2) 富士ゼロックス東京(本社)【次鋒】吉村 \otimes — 松本

△前回大会2位の富士ゼロックス東京が、昨年の決勝戦で対戦した選手も多いパナソニック(ES本社)と激突。先手を取ったのはパナソニック。吉村がメン、ひきメンと連取する(写真は二本目)。中堅戦も勝利したパナソニックが試合の流れを大きく引き寄せる